

令和7年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立戸祭小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和7年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

令和7年4月17日(木)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問調査）

4 本校の実施状況

第4学年	国語	85人	算数	85人	理科	85人
第5学年	国語	98人	算数	98人	理科	98人

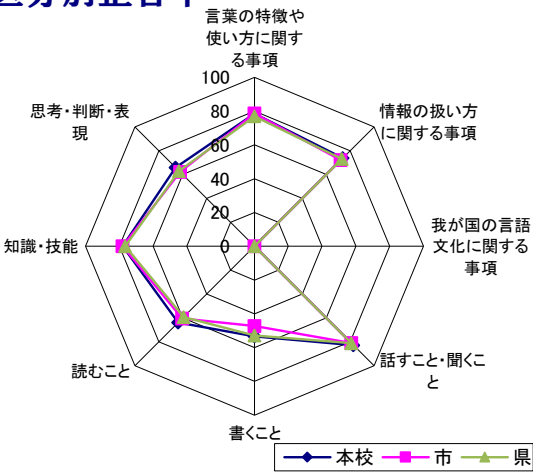
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立戸祭小学校 第4学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方にに関する事項	78.5	78.6	76.9
	情報の扱い方にに関する事項	73.8	72.2	73.1
	我が国の言語文化に関する事項	0.0	0.0	0.0
	話すこと・聞くこと	82.8	81.0	81.1
	書くこと	53.4	47.2	52.8
観点	読むこと	63.9	60.5	59.3
	知識・技能	78.0	78.0	76.5
	思考・判断・表現	66.0	62.3	63.1



★指導の工夫と改善

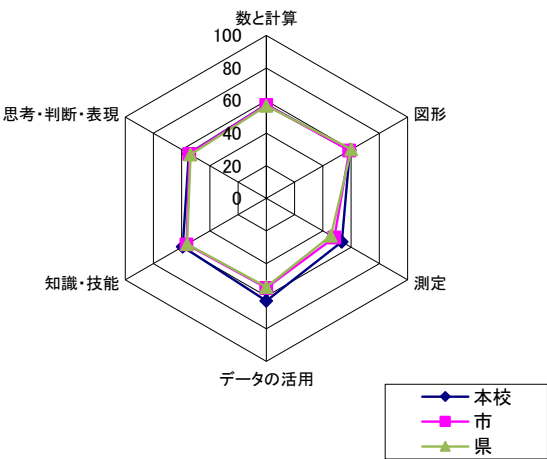
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方にに関する事項	○正答率は78.5%で、県や市の平均正答率とほぼ同じである。 ○漢字の読みについては、平均正答率が80%を上回った。3年生の漢字の読みは定着している児童が多い。 ●漢字の書きについては、無解答率が市や県の無解答率を上回っており、3年生の漢字が定着していないことがうかがえる。	・今後も朝の学習や家庭学習で国語の教科書の復習ページ、AIドリル等を使用しながら、既習の漢字を繰り返し練習する機会を設け、継続して定着を図っていくようにする。 ・漢字指導の際は、意味や熟語、部首の位置や名前など、漢字の成り立ちを意識させ意欲が高まるよう指導を工夫するとともに、ミニテストなどで繰り返し確認を行い定着を図っていく。
情報の扱い方にに関する事項	○校内正答率は73.8%で、県の平均正答率より0.7ポイント、市の平均よりも1.6ポイント高い。	・引き続き、国語辞典や漢字辞典を積極的に活用し、使い方を覚えたり、適切な調べ方を選択したりできるように指導していく。
話すこと・聞くこと	○正答率は82.8%で、県や市の平均正答率よりやや高くなっている。 ○話すこと・聞くことの設問においては全体的に市・県よりもできており、話の内容を正しく聞き取ることができている児童が多く見られる。 ●聞いたことをもとに自分で考えを理由を挙げながら話す問題の無解答率が高くなっている。	・国語科以外でもグループやペア活動を多く取り入れ、友達の意見を聞いたり自分の考えを伝えたりする機会を設けたり、スピーチのテーマを工夫し話す楽しさを味わわせたりしながら、話すことへの抵抗感をなくしていく。 ・話し方の話型を提示したり、根拠や理由を述べる話し方を指導したりして、繰り返し指導していく。
書くこと	○正答率は53.4%で、県の平均正答率とほぼ同じであり、市の平均正答率よりも6.2ポイント高くなっている。 ●問題全体の無解答率が高く、文を書くことへの苦手意識、設問における時間の使い方の問題が見られる。 ●文章の構成や段落等の理解が不十分な児童が多く見られる。	・授業の振り返りの書き方や日記指導をする中で、指定された長さで文章を書いたり、2段落構成で文を書く学習を取り入れたりと、指導の機会を増やす。 ・手本をもとに文章を構成したり、ペアで文作りをしたりするなどの工夫をし、自分の考えやその根拠を明確にして書いたり、具体的な事例を挙げて書いたりする学習を取り入れ指導を重ねていく。 ・「聞く・話す」活動と関連させ、指導の充実を図る。
読むこと	○正答率は63.9%で、県の平均正答率より4.6ポイント、市の平均よりも3.4ポイント高い。 ○登場人物の行動の理由を考えたり、文章を読んで感じたことや考えたことを適切に選んだりする設問では、校内正答率が市や県の平均正答率を上回り、人物の心情やその変化について叙述を基に捉えることができた。 ●「文章の要約を読み、空欄に適する言葉を書き抜く」設問では、正答率が低く無解答率も30%で、内容の中心を見付けたり要点を読み取ったりすることにおいて苦手意識が感じられる。	・文学的文章では、情景や心情を表す言葉や文を見付けたり、行間を読み想像したりし、感じたことを伝え合うなどの活動を取り入れるなど、充実を図っていく。 ・説明的文章では、繰り返しよく読み、中心となる語や文に着目できるようにしていく。また、段落ごとに小見出しを付け要点を捉えたり段落ごとの関連を考えたりするなどして整理し、筆者の考えや内容を捉えられるように丁寧に指導していく。

宇都宮市立戸祭小学校 第4学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	57.5	57.4	56.9
	図形	59.1	58.7	60.1
	測定	53.4	48.1	45.7
	データの活用	62.9	54.9	54.3
観点	知識・技能	59.3	56.6	56.2
	思考・判断・表現	54.9	54.5	53.8



★指導の工夫と改善

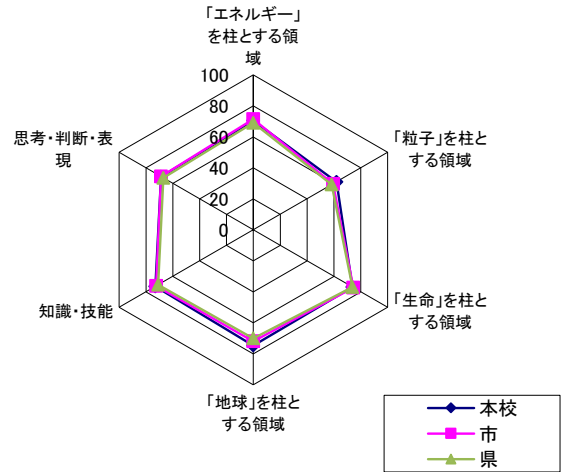
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○校内正答率は57.5%で、県や市の平均正答率とほぼ同じである。 ○小数を数直線の上に表す問題の正答率が51.3%で、県と市の正答率より約10ポイント高い。 ●2桁×1桁＝3桁の計算の正答率が71.3%で、県と市の正答率より約10ポイント低くなっている。	・九九や繰り下がりのあるひき算などの基礎的な計算技能の定着を図るため、日々の取組みの中に百マス計算を取り入れ習熟を図る。 ・筆算での繰り上がりや位を揃えることの理解が不十分であると考えられるため、位取りの指導を徹底し、繰り返し練習する機会を設ける。
図形	○正答率は59.1%で、県や市の平均正答率とほぼ同じである。 ○球の半径や直径を利用して長さを求める問題の正答率は60%で、県の正答率より3.4ポイント高い。 ●二等辺三角形になる点を選ぶ問題の正答率が27.5%と低い上に、県の正答率を4.7ポイント下回っている。	・図形の定義を正しく理解し、その図形の特徴や他の図形との違いに気付くようにするとともに、繰り返し作図する機会を設け、技能を確実に身に付ける。 ・辺や角などの図形を構成する要素に関わる問題を繰り返し解かせ、物の形や図形をいろいろな視点から見られるようにしていく。
測定	○正答率は53.4%で、県の平均正答率より7.4ポイント、市の平均よりも5.3ポイント高い。 ○はかりの目盛りを読みとり重さを答える問題の正答率が47.5%で、県の正答率より18ポイント上回っている。 ●重さを基準値のいくつかで考え説明する問いでは、無解答率が16.3%であった。	・「はかり」の学習では、目盛りの図を用いたり、動画を活用したりして、視覚的、体験的に学習し理解を深める。 ・類似問題や応用問題を繰り返し解くことで思考力を高め、言葉や文でまとめる機会を増やし、表現力を養っていく。
データの活用	○校内正答率は62.9%で、県の平均正答率より8.6ポイント、市の平均よりも8ポイント高い。 ●データを活用して説明する技能が身に付いている児童もいるが、目的に合わせて選んだ棒グラフが適切である理由を選ぶ問いでは、無解答率が20%と高い。	・単に数値を読むだけでなく、それが何を示しているのか、どのような傾向があるのかを考えさせ、データを読み取る力を養う。 ・データから分かることを言葉で伝えたり、グループで話し合わせたりするとともに、データを読むことのへの抵抗感をなくし楽しさやおもしろさを感じられるような工夫を取り入れ指導していく。

宇都宮市立小学校戸祭 第4 学年【理科】 分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	70.5	71.4	69.1
	「粒子」を柱とする領域	61.9	59.3	58.3
	「生命」を柱とする領域	73.8	74.5	73.8
	「地球」を柱とする領域	74.7	72.0	70.1
観点	知識・技能	73.0	72.5	70.9
	思考・判断・表現	68.7	68.8	67.1



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	○平均正答率は、70.5%で県や市とほぼ同じであった。 ○「輪ゴムの数と車が動く距離の関係を表すグラフを選ぶ」設問では、正答率が61.3%で、県平均を7ポイント上回った。 ○「実験結果から電気を通すか考察する」設問では、正答率が82.5%で、県平均を6.4ポイント上回った。 ●「電気の通り道の名称を答える」設問では、正答率が52.5%と低く、県平均を10.1ポイント下回った。	・実験や観察に興味をもって取り組んでおり、今後も実験結果から考えられることを考察したり自分の言葉で表現したりする活動を多く取り入れていく。 ・「回路」という言葉についての理解等、身に付けるべき知識が定着するよう、他の関連する単元でも繰り返し指導していく。
「粒子」を柱とする領域	○平均正答率は、61.9%で県や市を上回った。 ○「粘土の形と重さの関係について考察する」設問では、正答率は31.3%と低かったものの、県平均を4.3ポイント上回った。 ○「実験の様子から実験結果が異なる理由を選ぶ」設問では、正答率が87.5%で県平均を4.1ポイント上回った。	・基本的な学習内容が身に付いていることがうかがえる。さらに根拠ある予想や仮説をもとに実験結果を構想したり、関係性を考察し記述したりするなど、表現力を高める指導をしていく。
「生命」を柱とする領域	○平均正答率は、73.8%で県や市とほぼ同じであった。 ○「モンシロチョウのたまごと幼虫について適切な文章を選ぶ」設問では、正答率が92.5%で、県平均を3.1ポイント上回った。 ●「ホウセンカの育つ順に図を並び替える」設問では、正答率が58.8%で県平均を4.3ポイント下回った。 ●「クモが昆虫と言えるか述べた正しい文章を選ぶ」設問では、正答率が58.8%で、県平均を2.9ポイント下回った。	・動植物の観察に興味をもって取り組んでいるので、引き続き直接見たり触れたりする機会を設け、関心を高めていく。 ・植物の成長の過程や昆虫の体のつくりなど、身に付けるべき知識の定着が図れるよう、観察の視点を明確にし、絵や図にまとめる活動を多く取り入れるなど、指導を工夫していく。
「地球」を柱とする領域	○平均正答率は、74.7%で県や市を上回った。 ○「温度計の正しい使い方をを選ぶ」設問では、正答率が93.8%と高く、県平均を11.1ポイント上回った。 ○「日なたと日陰の地面の温度を調べた結果を適切に選ぶ」設問では、66.3%で、県平均を10.1ポイント上回った。 ●「方位磁針の正しい使い方をを選ぶ」設問では、正答率が61.3%で、県平均を2.4ポイント下回った。	・器具を操作しての実験や観察を多く取り入れていくとともに、方位磁針のように日常的に触れる機会が少ない器具についても、継続的に既習事項に触れ、確認するなど、正しい知識や技能を身に付けられるようにしていく。

宇都宮市立戸祭小学校 第4学年 児童質問調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家で、自分で計画を立てて勉強している。」について、肯定的回答をした児童の割合が85.3%であり、市の肯定的回答の割合より13.5ポイント上回っていた。他の質問をみても、学校の授業の内容を家庭でも取り組む姿勢が身についていることがうかがえる。家庭学習への取組が行われていることが分かり、保護者の協力のもと引き続き継続して行えるよう、保護者と連携を図っていきたい。

○「クラスは発言しやすい雰囲気である。」について、肯定的回答をした児童の割合が87.7%であり、市や県の割合をとともに上回っていた。本校の研究課題のうち「みんなで考え、伝え合う場の工夫」の取組などによって、児童の発言しやすい環境が作られていると考えられる。

○「分からない国名や地名があったら、インターネットや地図帳などを使って調べている。」「漢字の読み方や言葉の意味が分からないときは、辞書を使って調べている。」については、児童の肯定割合が5～10ポイント市や県の肯定割合を上回っている。このことから、本校が目指す、自己解決能力の育成に向けた学習への取組が、児童の主體的な学びにつながっていることが分かる。

○理科以外の教科において「しょう来的のために大切だと思いますか。」について、児童の肯定割合が、1～4ポイント市や県の割合を上回っている。さらに、理科以外の教科において「問題をとく時間は十分でしたか。」についても、児童の肯定割合が市や県の平均を上回っている。児童の学習に対する意識の高さが、学習の成果に結びついていることがうかがえる。継続した児童の意欲の向上を図る。

○「家の人と学習について話をしている。」について、児童の肯定的回答は、48.2%で、市の平均を4.6ポイント上回り、県の平均も5.2ポイント上回っている。また、「しょう来的ゆめや目標がある。」についても80.3%と市の平均を2.9ポイント、県の平均を5.4ポイント上回っている。また、「テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見ている。」について、児童の肯定的回答は、55.6%で、市の平均を5.2ポイント、県の平均を5.5ポイント上回っている。これらのことから、家庭での児童へのかかわりが充実していることや将来への見通しがたっている児童が多いと考えられる。また、社会への関心も高いと考えられ、今後も、児童一人一人の思いや願いを大切にしながら、よさを生かした指導に努めていきたい。

●「むずかしい問題にであうと、よりやる気が出る。」について、肯定的回答をした児童の割合が49.4ポイントで、県や市の肯定的回答の割合より6.4～8ポイント下回った。また、「できるだけ自分一人の力で課題を解決しようとしている。」について、肯定的回答をした児童の割合が76.6%で、県や市の肯定的割合より6.1～7.6ポイント下回った。既習事項を確認しながら、最後まで粘り強く取り組むことができるよう、支援していきたい。

●「毎日、朝食を食べている。」や「毎日、同じくらいの時こくにねている。」など、基本的な生活習慣に関わる設問について、肯定的回答をした児童の割合が市や県の割合をとともに下回っている。規則正しい生活について、学校生活の中で指導し、保護者とも協力して習慣化を図っていきたい。

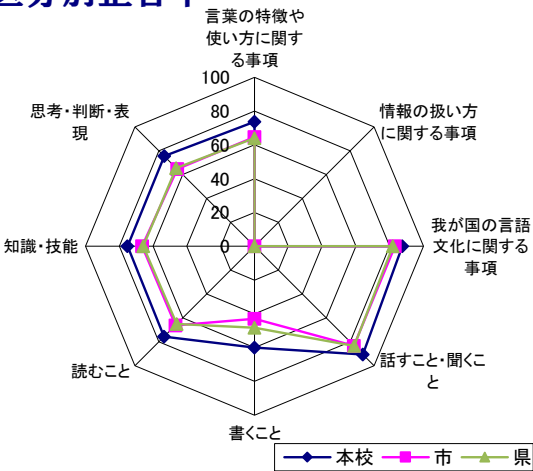
●「理科の学習は好きですか。」「理科の問題をとく時間は十分でしたか。」「自然やうちゅうなど、科学の内容をあつかっているテレビを見たり本を読んだりするのは好きだ。」については、児童の割合がいずれも市と県の平均を10ポイント近く下回っている。理科においては、児童の興味・関心を高める教材や指導方法を開発・導入するとともに、学習の目的や目標を明確にし、児童が達成感を味わえるような学習活動に努める。

●「自分には、よいところがあると思う。」について、49.4%で市の平均を9.3ポイント、県の平均を3.4ポイント下回っている。また、「ものごとを最後までやりとげて、うれしかったことがある。」について、61.7%で、市の平均を10.9ポイント、県の平均を8.7ポイント下回っている。このことから、自己肯定感が低い児童が多いと考えられ、失敗を恐れて、挑戦したいことに自ら挑戦できずにいることが考えられる。根気強く課題に取り組む姿勢も育てていく必要がある。児童たちの自己肯定感を高め、失敗を恐れない強い心を育てるために、児童の実態に応じて褒め励ましたり、安心して課題に取り組むことのできる環境づくりに努めていきたい。

宇都宮市立戸祭小学校 第5学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方にに関する事項	73.7	64.7	64.1
	情報の扱い方にに関する事項	0.0	0.0	0.0
	我が国の言語文化に関する事項	87.5	83.1	81.9
	話すこと・聞くこと	90.6	83.3	83.4
	書くこと	59.9	42.8	48.2
観点	読むこと	75.7	66.1	65.1
	知識・技能	75.1	66.5	65.9
	思考・判断・表現	75.5	64.6	65.5



★指導の工夫と改善

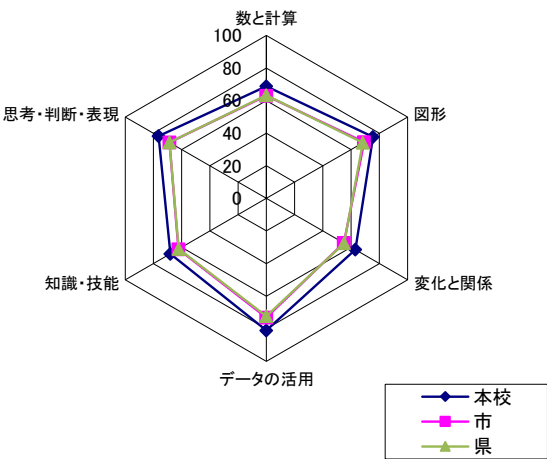
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方にに関する事項	○平均正答率は73.7%で、県の平均を9.6ポイント、市の平均も9ポイント上回った。 ○「漢字を読む」問題においては、正答率が100%と県と市の平均を上回っている。第4学年の漢字の読みは定着している様子が見られる。 ●文の中における修飾と被修飾の関係を捉えることができるかどうかをみる問題において、平均正答率が16.7%であった。	・音読や読書の際に、修飾語に注意して読むように促し、修飾・被修飾の関係を捉えることの重要性を実感させるようにする。 ・読解問題の際に、修飾語をあえて省いた場合と省かない場合で、文の意味がどのように変わるかを比較させるなど、修飾語がもつ情報の重要性を実感させる指導を行う。
我が国の言語文化に関する事項	○ことわざの意味を理解して、自分の表現に用いることができるかどうかをみる問題において、平均正答率が県の平均を5.6ポイント、市の平均も4.4ポイント上回った。	・ことわざや慣用句などが表す具体的な場面や状況と結びつけて意味を体感させる活動を取り入れていく。 ・意味を理解するだけでなく、日記や振り返りでの活用を励行することなど、実際に自分の言葉として使う練習を繰り返すことで知識を定着させ、表現の引き出しを増やす指導をする。
話すこと・聞くこと	○平均正答率は90.6%で、県の平均を7.2ポイント、市の平均も7.3ポイントも上回った。 ○司会の役割を果たしながら話し合い、参加者の発言を基に、考えをまとめることができるかどうかをみる問題において、平均正答率が県の平均を14.4ポイント、市の平均も14.6ポイントも上回った。	・話し合いの単元や、他の教科、学級活動の時間において、共通点・相違点に注目し、視覚ツールや役割体験で議論を深める力を育成することができるよう指導を工夫する。 ・伝え合う力を高めるために話す・聞く機会の拡充し、話の中心を捉え、自分の意見を簡潔かつ具体的に伝える場面を増やす等、指導を工夫する。
書くこと	○平均正答率は59.9%で、県の平均を11.7ポイント、市の平均も17.1ポイントも上回った。 ○アンケート調査の結果を読み、7行から9行で文章を書く問題において、平均正答率が県の平均を12.2ポイント、市の平均も18.5ポイントも上回った。 ●どの問題においても無解答率が7.3%であり、他の問題と比べると高い傾向にあった。	・テーマや字数など、与えられた条件で文章を書く機会を設けるなど、書く活動に日常的に取り組んでいく。 ・理由を挙げながら自分の考えを書く文章の訓練を積み重ねていく。 ・日記の課題を通して、文章表現する力を養う。
読むこと	○平均正答率は75.7%で、県の平均を10.6ポイント、市の平均も10.9ポイントも上回った。 ○場面の様子について、発言者を捉えることができるかどうかをみる問題において、平均正答率が県の平均を16.3ポイント、市の平均も14.8ポイントも上回った。 ●登場人物の気持ちについて説明した文の空欄に適する問題を書く問題において、平均正答率が46.9%と低く、登場人物の気持ちを具体的に想像することを苦手としている児童が多い傾向がうかがえる。	・文中の言葉や行動から気持ちを読み取る際に、その背後にある理由や感情を深掘りして考える活動を取り入れるなど、登場人物の気持ちを想像する指導を工夫していく。 ・登場人物の場面ごとの気持ちの変化、人物関係、状況がどう影響するかを整理するなど、感情の変化を追うことができる指導を充実させていく。

宇都宮市立戸祭小学校 第5学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	68.8	63.0	63.3
	図形	75.5	69.2	68.3
	変化と関係	62.9	54.8	55.0
	データの活用	81.0	73.1	72.3
観点	知識・技能	68.1	62.3	62.1
	思考・判断・表現	76.4	68.7	68.7



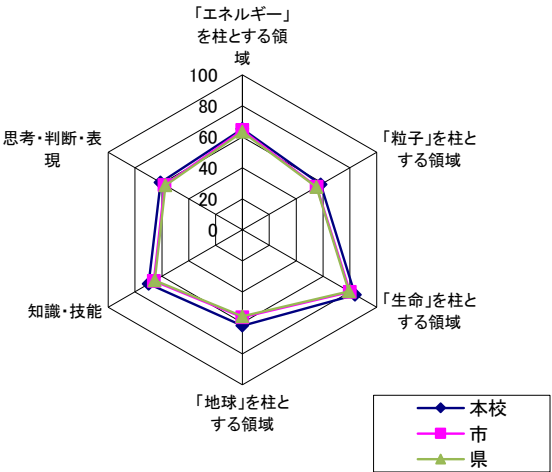
★指導の工夫と改善

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○平均正答率は、県より5.3ポイント、市より5.8ポイント高い。 ○式の意味を正しくとらえたえり、概数について理解し、目的に応じて見積もることがよくできている。特に式の意味をとらえる問題では、平均正答率が80%を上回った。 ●小数の大きさを比べる問題や、小数のわり算、分数のしくみを理解し、大きさを考える問題に課題が見られる。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・今後も、日常生活と関連付けながら、図や式、言葉を用いて考える活動を充実させ、式の立式や小数・分数の乗除の意味や計算の仕方の理解を図れるようにする。 ・分数や小数のしくみや大きさについては、復習を取り入れながら、もとにする数に着目して、具体物を使い視覚的に理解を深めたり、数直線を利用して位置関係を把握したりする等、指導を工夫する。
図形	○平均正答率は、県の平均正答率を6.3ポイント上回った。 ○「三角定規を組み合わせてできた角の大きさを求める式を選ぶ」問題では、県を9.5ポイント上回った。 ●「三角定規を組み合わせてできた角の大きさを求める」問題では、県の平均を上回った。しかし、誤解答が25%で、角の大きさについての理解に個人差が見られた。	・三角定規の角度を組み合わせ様々な角度を作ったり図形を構成したりする活動において、繰り返し学習することを通して、角度や図形の性質を正確に理解することができるようになる。 ・2つの三角定規を使って角の大きさを調べる活動の充実を図って、三角定規のそれぞれの大きさや2つの角を合わせてできる角の大きさについての理解を深めていく。
変化と関係	○平均正答率は、県の平均正答率を8.1ポイント上回った。 ○「割合を使った長さのもとめ方を説明する」問題では、県の平均を17.5ポイント上回った。 ●「表を縦に見て、伴って変わる2つの数量の関係から年齢を答える」問題では、県の平均を0.4ポイント下回った。	・他者に分かりやすく説明する力を身に付けるために、普段から数値と数値を関連付けて考えたり、数量の関係が簡潔・明瞭に伝わるような表現方法を工夫する活動を積極的に取り入れていく。 ・具体物を用いて見通しをもたせたり、イメージをさせたりする活動を取り入れ、算数的な感覚を養っていく。
データの活用	○平均正答率は、県の平均正答率を8.7ポイント上回った。市の平均を7.9ポイント上回った。どの設問においても、県の平均を上回っている。 ○折れ線グラフの特徴や表の意味をよく理解できている。 ●「折れ線グラフと棒グラフの複合グラフから、傾向を読み取る」という問題は、正答率が80%を下回った。	・計算問題だけでなく、目的に応じてデータを集めて分類する問題や、データの特徴や傾向に着目して問題を解決する機会を増やしていく。 ・グラフなどの資料内容が理解できるように、学習体験（社会科や総合的な学習の時間など）との関連を図りながら、学校生活の中で、課題意識をもち、データを活用する場面を多く取り入れる。

宇都宮市立戸祭小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	65.1	64.3	63.2
	「粒子」を柱とする領域	58.4	55.4	55.1
	「生命」を柱とする領域	83.9	80.1	79.3
	「地球」を柱とする領域	61.9	56.4	55.8
観点	知識・技能	69.9	66.0	65.3
	思考・判断・表現	61.1	57.9	57.4



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	○平均正答率は、65.1%で県や市を上回った。 ○乾電池のつなぎ方の名称を答える問題では、市より9.8ポイント高かった。 ●乾電池と簡易検流計の振れ方の関係を捉える問題では、市の平均正答率より5.1ポイント低かった。	・基本的な学習内容が定着していることがうかがえるが、乾電池のプラスとマイナスと電流の流れの方向や、簡易検流計にどう表示されるかなど、実験や復習を通して、理解を深める。 ・今後も実験において、簡易検流計の使用方法等が大切であることを踏まえて指導する。
「粒子」を柱とする領域	○平均正答率は58.4%で県や市の平均を上回った。無解答率も0%またはほんのわずかであった。 ○「温度による空気の体積変化の理由を説明する」や「暖められた空気とエアコンの吹き出し向きの変化を関連付けて答える」などの記述式の問題では、県や市の平均を5ポイント以上上回った。 ●「圧し縮めたときの空気と水の体積変化の違い」についての問題では、市や県の平均をわずかに下回った。	・今後も継続的に既習事項に触れながら授業づくりを進めていくと同時に、定期的に自主学習等での復習も奨励し、知識の定着化を図る。 ・実験や観察の結果の見方や結果から考察したことを自分の表現で文章化する活動をより一層取り入れ、思考力の向上を図る。 ・今後も、日常生活と関連させて、身近な問題として考えられるように指導していく。
「生命」を柱とする領域	○平均正答率は、83.9%で県や市を上回った。 ○動植物に関する問題では、すべて市や県の平均より高かった。 ●骨のはたらきを説明した文章をすべて選ぶ問題では、市の平均正答率より低く、43.8%であった。	・今後も動植物の観察等、身近な生活と関連付けながら学習を進め、関心意欲を高めていく。 ・骨のはたらきについては、自分の体の動きとしてとらえながら実験や観察を行うなど工夫し、人の体と骨、筋肉の関係の理解を深め、知識・理解を確かなものにする。
「地球」を柱とする領域	○平均正答率は、61.9%で県や市を上回った。 ○「気温の変化の様子」についての問題では、県の平均を17.8ポイント上回った。 ○「水蒸気」についての問題では、県の平均を7.5ポイント上回った。 ●「水蒸気と結露の関係」についての問題については、平均正答率が32.3%だった。県や市の平均を上回ってはいるが、平均正答率が40%を下回っている。	・今後も、普段の生活と関わりのある関連項目について積極的に紹介し、児童の理科的興味・関心が高まるように指導の充実を図る。 ・実験や観察後の考察の時間を十分に確保して理解を深めるとともに、普段の生活との結びつきについても考えることができるようにする。 ・学習内容と日常生活の現象を関連付けて捉えるように指導していく。自分の考えを文章化させる活動をより一層取り入れていく。

宇都宮市立戸祭小学校 第5学年 児童質問調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家で、学校の宿題をしている」について、肯定的回答をした児童の割合が、92.8%と高い。また、「家で、学校の復習をしている」や「家で、自分で考えた勉強をしている」の質問項目についても肯定的回答をしている児童が7割を超えており、自分に必要な学習内容を工夫しながら取り組むなど、家庭での学習習慣の定着が見られる。

○「疑問に思うことは、分かるまで調べたい」や「本やインターネットなどを通して、勉強に必要な情報を得ている」の項目に肯定的な回答をした児童の割合は、それぞれ市や県の平均を大きく上回っている。また、「授業を集中して受けている」について肯定的回答した児童の割合は93.9%で市や県の平均を上回っている。今後も、児童の学習意欲の向上につながるような学習活動を工夫し、分かる楽しい授業の展開を意識した教材研究に努めていく。

○家庭での学習の取り組み方については、平日の学習時間が1時間以上である児童が70.2%で、市や県の平均を20ポイント近く上回っており、家庭学習の習慣が定着している児童が多い。

○「授業の中で、目標(めあて・ねらい)がしめされている」「授業の最後に、学習したことを振り返る活動をよく行っている」の項目について、それぞれ肯定的回答をした児童の割合が9割近くおり、市や県の平均を大きく上回っている。本校の学習指導において「めあて・まとめ・振り返り」を取り入れた授業づくりを行ってきた効果が表れており、今後も学習指導の基本を徹底し、児童が見通しをもって学習できる授業づくりを継続して行っていく。

○「テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見ている」「地いきや社会で起こっているできごとに関心がある。」「新聞を読んでいる。」の項目に対して肯定的回答をしている児童の割合がいずれも市と県の平均を上回っている。自ら情報を収集し、理解しようとする主体的な学びへの姿勢がうかがえる。

●「算数の学習は好きですか」「理科の学習は好きですか」の項目に対して肯定的回答をしている児童の割合がいずれも市と県の平均をやや下回っている。児童の興味・関心に合わせた教材や指導方法を開発・導入するなどして、学習の目的や目標を明確にし、児童が達成感を味わえるような学習活動を取り入れる必要がある。

●「自分はクラスの人の役に立っていると思う」について、肯定的回答をした児童は62.9%で、市や県の平均をやや下回っている。反面、自分のよさを人のためにいかしたい、自分をもって能力を十分発揮したいと思っている児童が多い。人のために役に立ちたいという意欲を尊重し、具体的な場面で称賛したり、その行動がどのように集団の中で意味をもっているのかを実感させたりして、自己肯定感を高めていく。

●「授業で自分の考えを文章にまとめることはむずかしい」について、肯定的回答をした児童は、54.7%と市や県の平均を下回っている。今後も作文や日記などを通して、文章を書くことへの抵抗感をさらに減らしていけるよう取り組んでいく。

宇都宮市立戸祭小学校 (第4・5学年共通) 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
<ul style="list-style-type: none"> ・自ら考え、伝え合い、理解し実践する児童の育成 ・児童が納得と達成感を得られる工夫 ・すべての児童が発言できる学習形態の工夫 	<ul style="list-style-type: none"> ・全員が理解できるように、課題提示を工夫し、学習の見通しをもたせ、授業で何をすればよいのかを明確にした授業を展開する。 ・伝え合う活動の充実を図り、児童が学んだことを自分の言葉に言い換える場を設け、考えを深められるようにする。 ・「相手への伝え方」のレベル表を作成し、伝えることを児童に意識させるとともに、友達の意見や考えを聞き比べ、考えを深める場となるよう指導する。 ・朝の学習時間に「計算オリンピック」を行い、基礎的・基本的な力を養う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・国語、算数、理科において、市の平均正答率と同程度か、それより高い。 ・「授業でめあて・ねらいが提示されている」「ノートにまとめている」の平均肯定割合は約9割、「まとめ・振り返りを行っている」「話し合いに進んで参加している」の平均肯定割合は約8割であり、良好であった。 ・「勉強して、おもしろい、楽しい」は約8割、「先生は、学習のことについてほめる」は約9割であった。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
<ul style="list-style-type: none"> ・記述式の解答問題やデータ等を読み取る問題が苦手である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の中で、正答かどうかだけでなく、理由や根拠等を明らかにすることを意識できるよう指導する。 ・類似の学習課題において、スモールステップで指導を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・短答式の解答だけでなく、文章などを書く解答方法も意図的に授業に取り入れる。 ・正答か否かに関わらず自分で考えてそれを表現することの重要性を、全職員同歩調で児童に伝えていく。 ・友達の意見を、最後まで共感的に聞くことを徹底していく。